

天神地区における子連れ家族の行動特性に関する研究

福岡大学工学部社会デザイン工学科 辰巳 浩, 堤 香代子, 吉城 秀治, 古閑 勇貴

1. はじめに

誰もが楽しく快適に回遊できる中心市街地の創出は、都市の活性化に向けて重要な検討事項である。特に少子化対策が喫緊の課題となっている我が国においては、子連れであっても都市に訪れやすい交通環境を整備していくとともに、都市に訪れてからも回遊しやすい中心市街地を整備していく必要があるものと考えられる。

そこで、学術的にも子連れや子どもを対象とした研究が行われつつあり、中でも近年では、幼少期における都市での楽しい思い出が将来的に都市を指向させる上で重要であるとの研究成果が得られている。しかしながら、子連れを対象とした先行研究をはじめ既存研究において、子どもを楽しく回遊させるための知見については十分に明らかにされていない。

そこで本研究では、福岡市天神地区を対象として、来街者に対してアンケート調査を実施し、回遊時における子連れ来街者と一般来街者の回遊特性の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

天神地区での回遊行動の分析のための主な調査項目は、個人属性、天神地区での回遊行動、小学生以下の子供を持つ人には天神地区以外で子供を遊ばせるためによく行く場所等である。調査日は平成27年10月3日(土)、4日(日)、10日(土)の土日で、天神地区の4箇所にて、子連れ来街者と一般来街者に同数のアンケート調査票を配布した。配布部数は各地点1,000部を目標とし、合計3,800部である。回収方法は後日郵送回収で、回収部数は1,129部で、回収率は29.7%である。調査概要と調査項目を表1に示す。

表1 アンケート調査の概要

配布日	平成27年10月3日(土)、4日(日)、10日(土)
配布・回収方法	無作為配布、後日郵送回収
配布場所	福岡市天神(バルコ前、ライオン広場、エルガー前、地下街)
配布部数	各地点1,000部(ライオン広場のみ3,800部) 合計4,000部
回収部数、回収率	1,129部、29.7%
個人属性	性別、年齢、職業、子供の有無、来街頻度等
天神地区での回遊行動	調査日の交通手段、同行者の属性と来街、到着時刻と出発時刻、回遊行動と目的、消費金額、天神地区での満足度、子供の様子
天神地区以外でよく行く場所	子供を遊ばせる場所、そこを遊ぶ理由、交通手段

3-2. 回遊について

(1) 天神地区での滞在時間

天神地区への到着時刻と天神地区を出た時刻、その差から求めた天神地区での滞在時間を、図10~14に示す。独立性の検定の結果、子連れ&年齢層には到着時刻、天神地区を出る時刻、滞在時間のそれぞれに差があり、同行者数(回答者も含む)でも差があるといえる。子連れは一般来街者よりも天神地区への来街時刻が約1時間遅く、一般来街者30-49歳と比べて遅い。天神地区を出る時刻は子連れは一般来街者の50歳以下と同じ傾向であり、一般来街者30-49歳は17時までは29歳以下とほぼ同じ傾向がみられ、子連れと異なる。

滞在時間は平均4時間1分であり、子連れが最も短い3時間35分、一般来街者の30-49歳は4時間50分であり、子連れよりも1時間15分も長い。

(2) 回遊行動の推移について

調査では図17に示す27のエリアを訪れた番号とその順番について尋ねた。お帰宅(または天神地区外に移動)したタイミングより回遊数(図14)を求めた。

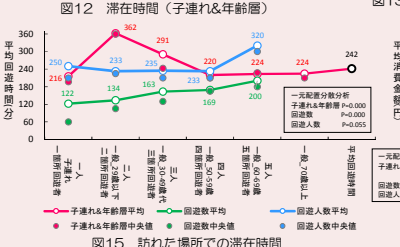
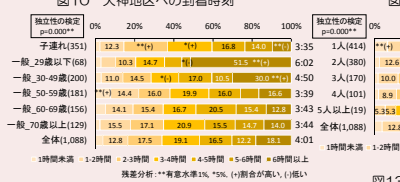
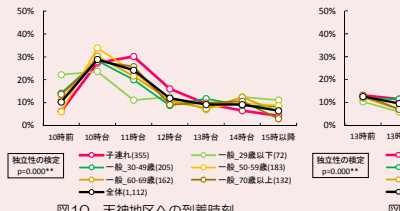


図10 天神地区への到着時刻

図11 天神地区から出る時刻

図12 滞在時間(子連れ&年齢層)

3. 分析結果

3-1. 個人属性

(1) 個人属性と子連れ来街者の定義

回答者1,129人の個人属性(図1)は、女性が80%弱、年齢層に大きな偏りはみられず、40歳代と30歳代がそれぞれ20%強、職業は有職者が40%である。回答者の居住地は90%強は福岡県内で、そのうち福岡市内が最も多く70%を占める。

小学生以下の子供を持つ回答者の子供の年齢と、調査日の天神地区への同行者を図2.3に示す。小学生以下の子供を持つ回答者は354人で31.3%であり、小学生以下の子供を連れて来街した回答者は361人で32.0%である。361人中354人は小学生以下の子供を持つ回答者(図4)であり、この361人は「子連れ」、小学生以下の子供を連れていない来街者775人を「一般来街者」と称する。これらのグループの年齢層(図5)は、子連れは30-49歳が86.1%を占めている。そこで、子連れと近い年齢層である30-49歳の一般来街者が子連れと異なった回遊特性であるときは、子供を連れていないことによる回遊特性であると判断する。なお、図中の()内の数値はサンプル数を表す。

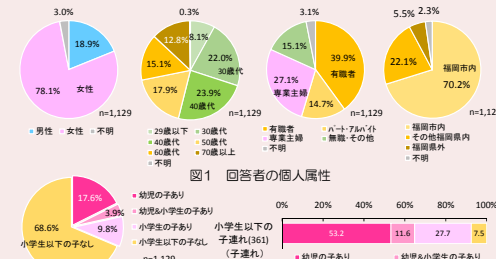


図1 回答者の個人属性

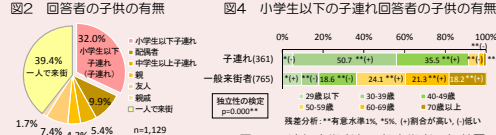


図2 回答者の子供の有無

図3 天神地区への同行者

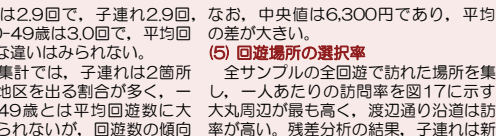


図4 小学生以下の子連れ回答者の子供の有無

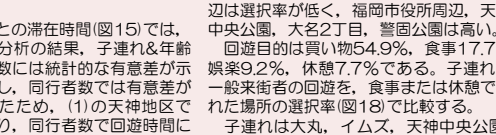


図5 子連れ来街者と一般来街者の年齢層

平均回遊数は2.9回で、子連れ2.9回、一般来街者30-49歳は3.0回で、平均回遊数に大きな違いはみられない。

回遊数別の集計では、子連れは2箇所の回遊で天神地区を出る割合が多く、一般来街者30-49歳と比べて平均回遊数に大きな違いはみられないが、回遊数の傾向は違いがみられる。

(3) 回遊時間

回遊箇所ごとの滞在時間(図15)では、一元配置分散分析の結果、子連れ&年齢層および回遊数には統計的に有意な差が示された。しかし、同行者数では有意差が示されなかったため、(1)の天神地区での滞在時間より、同行者数で回遊時間には差がないといえる。また、回遊数が1箇所以外は平均回遊時間と中央値は近似している。

(4) 消費金額

回遊中の総消費金額とその中央値を、図16に示す。一元配置分散分析の結果、子連れ&年齢層には消費金額に差がなく、回遊数と同行者数には差があるといえる。平均消費金額は14,206円であり、同行者5人や3箇所回遊者が消費金額が高い。

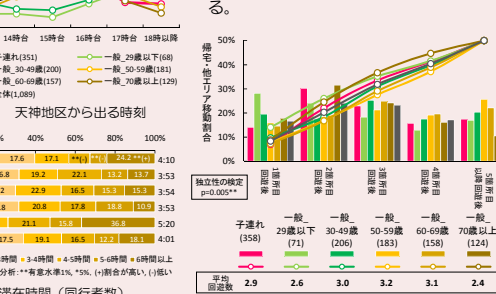


図6 消費金額

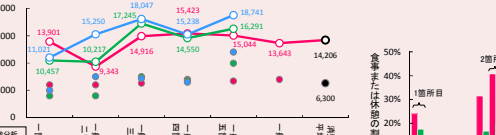


図7 回遊数と天神地区から出る割合

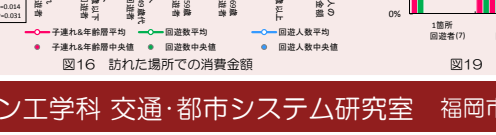


図8 回遊数と天神地区から出る割合

(2) 来街頻度

回答者の天神地区への来街頻度を図6に示す。来街頻度と子連れ&年齢層との関係は独立性(χ^2)の検定より、子連れ&年齢層には来街頻度に差があるといえる。残差分析より、子連れは一般来街者より来街頻度が少なく、一般来街者30-49歳に比べても少ない。一般来街者は29歳以下を除くと、年齢が上がるに従い来街頻度が多くなっている。

(3) 移動時の地上と地下の好み

天神地区を移動する際の地上・地下の好みを図7に示す。独立性の検定の結果、子連れ&年齢層には地上・地下の好みには差があるといえる。残差分析より、子連れと50-59歳は地上を好む割合が少なく、50-59歳は地下を好む割合が多い。また、70歳以上はその反対で地上を好む割合が多い。

(4) 利用交通手段

天神地区への来街時の交通手段を図8に示す。独立性の検定の結果、子連れ&年齢層には利用交通手段には差があるといえる。残差分析より、子連れは自家用車の利用が多く、バスの利用が少くない。一般来街者30-49歳に比べても同様なことがいえる。また、年齢が上がるに従いバス利用が増え、自家用車利用が減っている。

(5) 同行者数

同行者(回答者自身を含めた)人数を図9に示す。平均の同行者人数は2.0人である。独立性の検定の結果、子連れ&年齢層には同行者数に差があるといえる。残差分析より、子連れは3.4人連れが多く、5人以上が少くない。一般来街者は各年齢層で単独での来街が55%強であり、単独と二人連れで90%を占める。

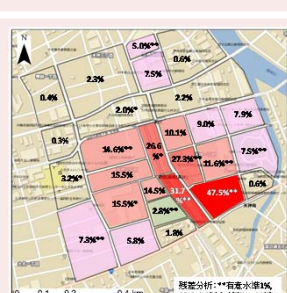


図9 同行者(回答者を含む)人数

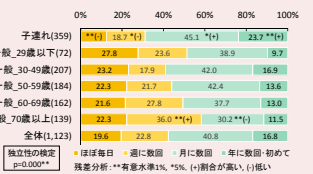


図10 天神地区への来街頻度

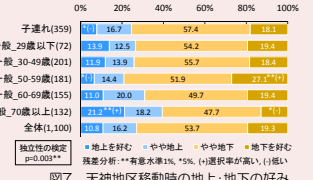


図11 天神地区移動時の地上・地下の好み

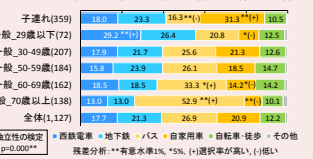


図12 天神地区への来街交通手段

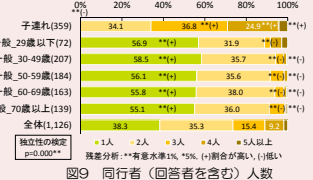


図13 同行者(回答者を含む)人数

調査日の天神地区での回遊について、回答者本人の満足度を図21に示す。独立性の検定の結果、子連れ&年齢層には満足度に差があるといえる。残差分析より、子連れはやや不満・不満の割合が高く、一般来街者30-49歳と比べてもやや不満・不満が多い。29歳以下は満足度が高い。

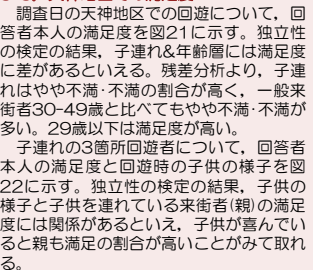


図14 天神地区での回遊での満足度

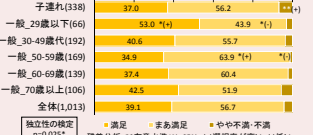


図15 子連れ3箇所回遊者の満足度と子供の様子

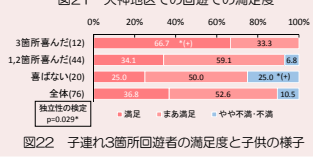


図16 子連れ3箇所回遊者の満足度と子供の様子

子連れは来街頻度が少ない。来街時には自家用車利用が多く、バス利用は少ない。来街人数は2人または3人が多い。天神地区への到着時刻は一般来街者よりも1時間遅く11時台が最も多い。一般来街者30-49歳と比べると、天神を出る時刻は早く、1時間15分も滞在時間が短い。平均回遊数は2.9回であるが、子連れは2箇所回遊者が多い。子連れは食事または休憩場所が集中しており、公園の利用も多い。また、食事または休憩は早い段階の回遊から取られている。子連れは天神地区の回遊の満足度は、一般来街者よりも不満の割合が多い。子供を楽しく回遊させることが自身の満足度の向上に重要であるといえる。また、子供の用事で買い物、食事、娯楽、食事を行う場合でも、そうでない場合でも子供の様子に差がないことも明らかになった。子連れ来街者と一般来街者の回遊場所、食事または休憩の取り方、回遊数などに違いがあり、回遊特性の違いを明らかにすることができた。

4. まとめ

子連れ来街者の回遊特性を明らかにするために、天神地区を訪れた日の回遊行動を調査した。その結果、子連れ来街者について次のことが明らかになった。

子連れは来街頻度が少ない。来街時には自家用車利用が多く、バス利用は少ない。来街人数は2人または3人が多い。天神地区への到着時刻は一般来街者よりも1時間遅く11時台が最も多い。一般来街者30-49歳と比べると、天神を出る時刻は早く、1時間15分も滞在時間が短い。平均回遊数は2.9回であるが、子連れは2箇所回遊者が多い。子連れは食事または休憩場所が集中しており、公園の利用も多い。また、食事または休憩は早い段階の回遊から取られている。子連れは天神地区の回遊の満足度は、一般来街者よりも不満の割合が多い。子供を楽しく回遊させることが自身の満足度の向上に重要であるといえる。また、子供の用事で買い物、食事、娯楽、食事を行う場合でも、そうでない場合でも子供の様子に差がないことも明らかになった。子連れ来街者と一般来街者の回遊場所、食事または休憩の取り方、回遊数などに違いがあり、回遊特性の違いを明らかにすることができた。